



つなぐ。 ツクル。

2020年9月期決算説明資料

2020年11月

極東産機株式会社 (6233 東証JASDAQ)

KYOKUTO

©KYOKUTO SANKI CO., LTD. all rights reserved

I

2020年9月期決算概要

II

2021年9月期決算見通し

III

トピックス

Appendix

2020年9月期決算概要

● 2020/9期決算への影響

- ✓ 緊急事態宣言により展示会などが休止となり、3Qは営業活動が停滞
- ✓ 緊急事態宣言解除により徐々に回復も、経済活動水準の回復ピッチは鈍い

 2020/9期通期決算見通しを8月に減額修正
コロナ禍による機会損失は、売上10億円弱、営業利益2億円弱と試算
しかし、自助努力で減益幅圧縮。平常時の6割程度の利益を確保

● 今後のウィズコロナ対応

- ✓ プロフェッショナル：オンラインコミュニケーションツールも補強手段として活用
旅費交通費の圧縮にもプラス
- ✓ コンシューマ：感染症対策も兼ねた防災商品等の開発に注力等
- ✓ インダストリー：非接触型機械/自動化機械に注力
サプライチェーン国内回帰の流れも追い風

 2021/9期見通しでは需要の緩やかな回復を想定
極端な感染拡大は現時点で想定せず、2021/9期中には本格回復が始まる見通し

2020年9月期決算の概要

- 2020/9期は新型コロナの影響から大幅減収減益。ただし、8月予想比ではコスト改善進捗で利益超過達成
- セグメント別には、米中貿易摩擦を受けてインダストリーに逆風。一方、主力のプロフェッショナルは新製品効果の寄与もあり、高採算製品をテコに営業増益

(百万円)	2019/9期	2020/9期		前期比		直近予想比 増減額
		8月予想 (2020/8/11)	実績	増減額	増減率	
売上高	9,159	8,040	8,006	▲1,153	▲12.6%	▲33
プロフェッショナル	6,766	—	6,385	▲381	▲5.6%	—
コンシューマ	1,071	—	930	▲140	▲13.2%	—
インダストリー	1,321	—	691	▲630	▲47.7%	—
営業利益	248	61	120	▲128	▲51.6%	+58
プロフェッショナル	72	—	78	6	+8.6%	—
コンシューマ	39	—	35	▲3	▲9.3%	—
インダストリー	137	—	6	▲131	▲95.4%	—
経常利益	212	2	81	▲131	▲61.7%	+78
当期純利益	144	1	67	▲76	▲53.2%	+65
営業利益率	2.7%	0.8%	1.5%	▲1.2 p	—	+0.7 p
経常利益率	2.3%	0.0%	1.0%	▲1.3 p	—	+1.0 p

四半期別業績動向

- 3Qの売上はコロナ禍の影響により、4Qは前年にあった消費税引上げ前の駆け込み需要により、それぞれ前年比で減収減益。特に非常事態宣言期間となった3Qは営業活動の縮小もあり、苦戦
- しかし、4Qはコストダウンの進捗により経常利益率は前年水準近くまで持ち直しを達成。特に、プロフェッショナル事業はコロナ禍の中でも堅調に推移し、前年比増益を達成。当社事業基盤として収益力の底堅さを確認

(百万円)	2019/9期				2020/9期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,022	2,240	2,079	2,817	1,815	2,184	1,659	2,348
プロフェッショナル	1,511	1,706	1,513	2,034	1,505	1,693	1,299	1,887
コンシューマ	272	211	259	327	206	271	211	241
インダストリー	238	322	306	455	102	220	148	219
営業利益	32	48	6	161	▲ 19	94	▲ 68	113
プロフェッショナル	13	7	▲ 30	82	▲ 5	53	▲ 67	98
コンシューマ	4	▲ 2	8	29	▲ 1	19	6	11
インダストリー	14	43	29	49	▲ 11	22	▲ 8	3
経常利益	22	35	3	151	▲ 22	58	▲ 77	122
当期純利益	11	18	2	112	▲ 19	41	▲ 56	101
営業利益率	1.6%	2.2%	0.3%	5.7%	▲ 1.1%	4.4%	▲ 4.1%	4.8%
経常利益率	1.1%	1.6%	0.2%	5.4%	▲ 1.2%	2.7%	▲ 4.6%	5.2%

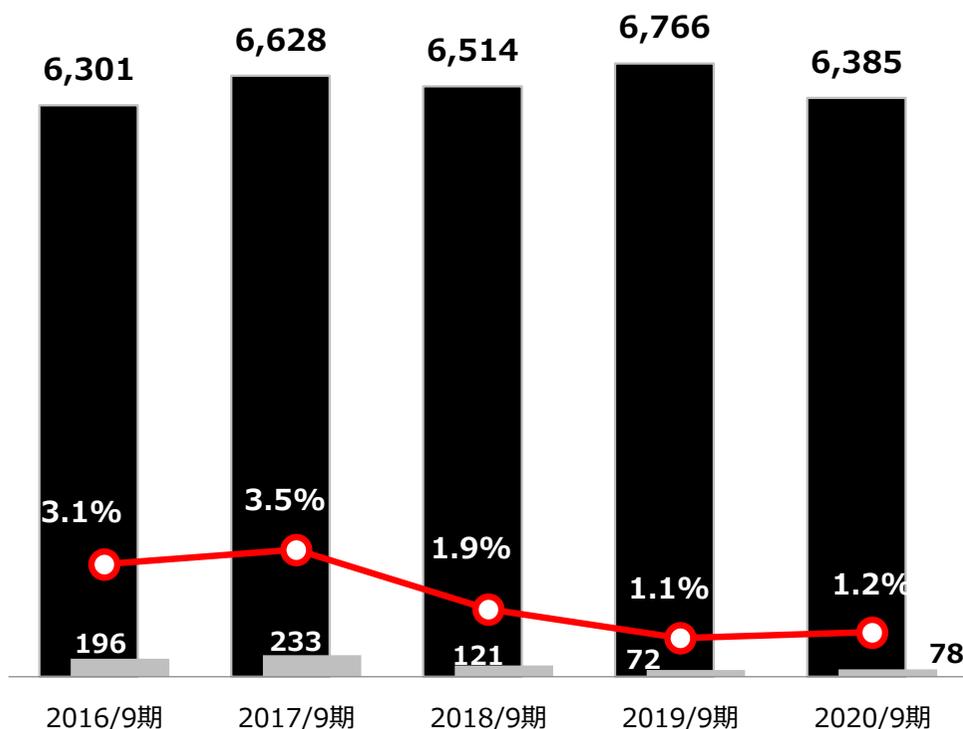
セグメント別事業の状況 ①プロフェッショナルセグメント

- 畳製造装置では、災害復旧に伴う実需が下支える中、中小企業支援補助金効果で件数増加。一方、インテリア事業では新規住宅着工の増加から4Qより回復に転じるも、3Qの展示会縮小響き伸び悩み
- 損益的には、カタログ発刊コストの消失、展示会縮小に伴う旅費交通費の圧縮などによりコストが大幅に低下。減収インパクトも仕入れ商品がその主体となったことで影響は限定的にとどまり、営業増益を確保

売上高・営業利益・営業利益率

(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率



主たる変動要因

- ① 畳関連：中小企業支援補助金効果
 - ✓ 災害に伴って復旧実需が下支え
 - ✓ 中小企業庁「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」も需要喚起のカンフル剤に
 - ✓ 畳店採択数増加
- ② インテリア関連
 - ✓ コロナ禍で春先の展示会は軒並み中止に。特に仕入れ商品の販売にブレーキ
 - ✓ 6月以降は新規住宅着工戸数が回復基調に転換。自動壁紙糊付機の需要も反転
- ③ その他
 - ✓ コロナ禍で営業スタイルの変更を推進
 - ✓ オンラインの活用により、交通費など種々の営業コストは大きく減少

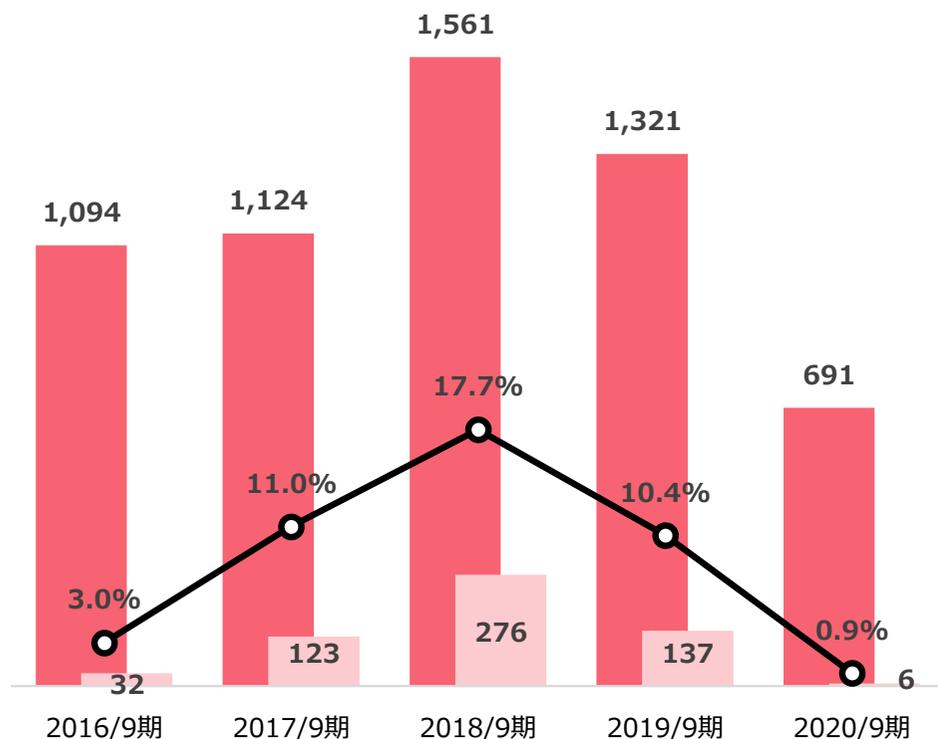
セグメント別事業の状況 ② インダストリーセグメント

- 産業機器関連では米中関係悪化による投資減少の影響を受け低調
- 従来想定していた対応領域の拡大、新規顧客の獲得も一旦凍結状態
- 食品機器も、コロナ禍で本来のニーズは高まるものの、飲食店自身の営業縮小から納入延期が発生

売上高・営業利益・営業利益率

(百万円)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 営業利益率



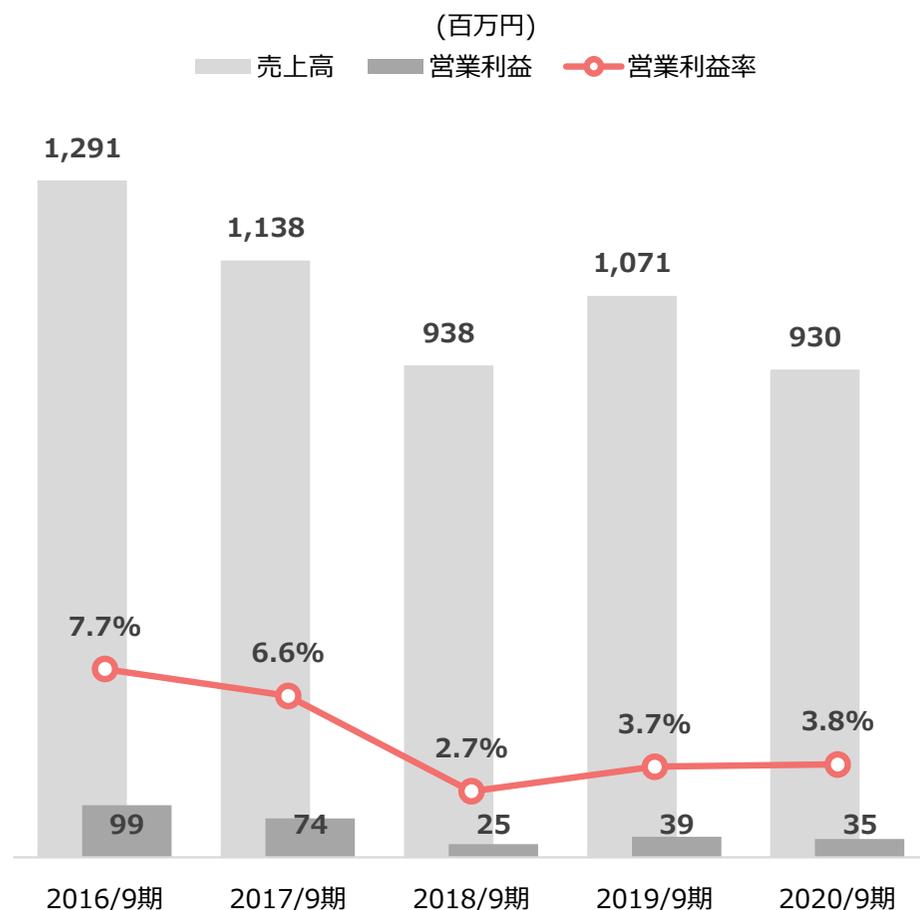
主な変動要因

- ① 産業機器：米中摩擦の逆風**
 - ✓ 米中関係悪化等による投資減少で、二次電池製造装置の受注は下期に失速
 - ✓ それに伴い、前後工程への対応領域拡大を狙った開発戦略も凍結状態に
 - ✓ その他のオーダーメイド産機も、顧客企業における投資圧縮の流れは逆風に
- ② 食品機器：コロナ禍で納入遅れ**
 - ✓ 主力のマルチディスペンサーの受注は順調。コロナ禍で自動化のニーズは更に拡大
 - ✓ 顧客層も大手飲食チェーンが中心であり、経営面での懸念もなし
 - ✓ しかし、営業時間短縮や店内席数削減などから喫緊の需要も一時停滞。納入延期が発生

セグメント別事業の状況 ③コンシューマセグメント

- ソーラー・エネルギー事業は堅調に推移。小規模産業用ソーラーなど、ローカル地域の需要を着実に受注
- 一方、コンシューマ事業はコロナ禍拡大の影響により、ホテル・旅館などの大口需要が減少。前年にあった消費税引上げ前の駆け込み需要の反動減も重石に
- 避難所向け間仕切り付き畳マットやフィットネス向け防音・防振床材は好調継続

売上高・営業利益・営業利益率



主な変動要因

① コンシューマ事業

- ✓ 避難所向け間仕切り付き畳マット、フィットネス市場向け防音・防振床材等のユニークな商品は好調
- ✓ 新型コロナ拡大によりホテル・旅館の大口受注が減少
- ✓ 消費税率引き上げの反動により、畳替仲介事業が大幅減

② ソーラー・エネルギー事業

- ✓ 小規模産業用ソーラー案件を着実に受注し増収

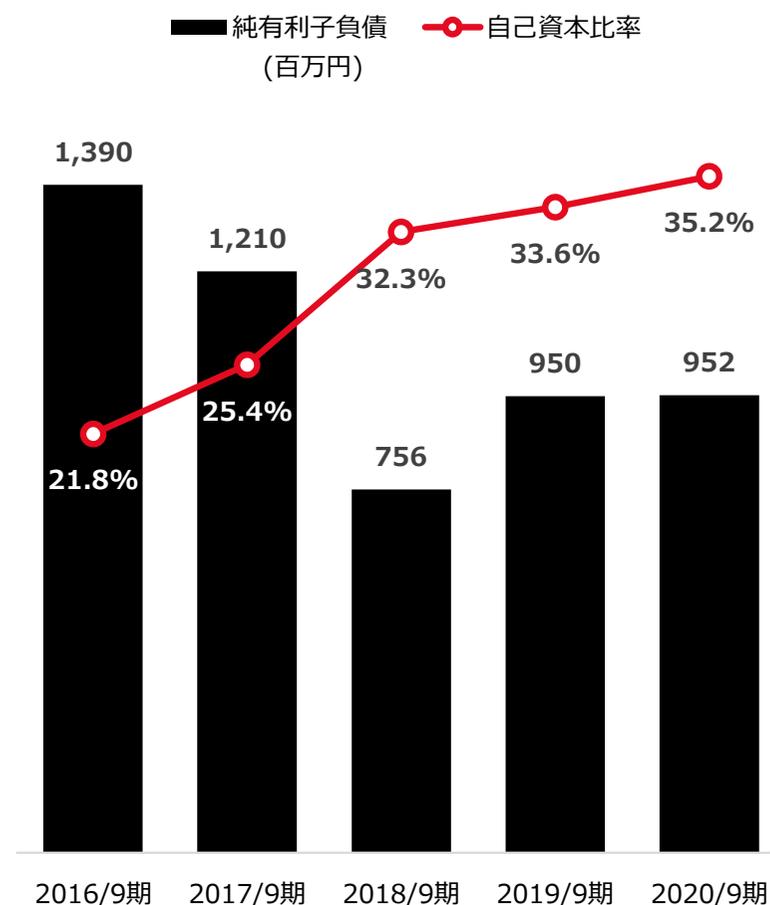
③ 売電事業

- ✓ メガソーラー発電所「三日月サンシャインパーク」等が順調

バランスシートの状況

- 総資産が大きく減少。コロナ禍による取引規模の縮小に伴う債権債務残高の減少が原因
- 自己資本比率はさらに上昇し、35.2%に。コロナ禍の影響とはいえ、結果的にバランスシートのスリム化が進展
- 期末の手元資金は潤沢な水準を維持

(百万円)	2018/9期	2019/9期	2020/9期
流動資産	5,266	5,344	5,048
現預金	1,555	1,407	1,429
売掛債権	2,780	3,034	2,627
棚卸資産	920	876	953
固定資産	2,695	2,678	2,543
総資産	7,962	8,023	7,591
負債	5,388	5,326	4,918
買入債務	1,920	2,018	1,635
有利子負債	2,311	2,357	2,381
純資産	2,573	2,696	2,673
負債純資産合計	7,962	8,023	7,591

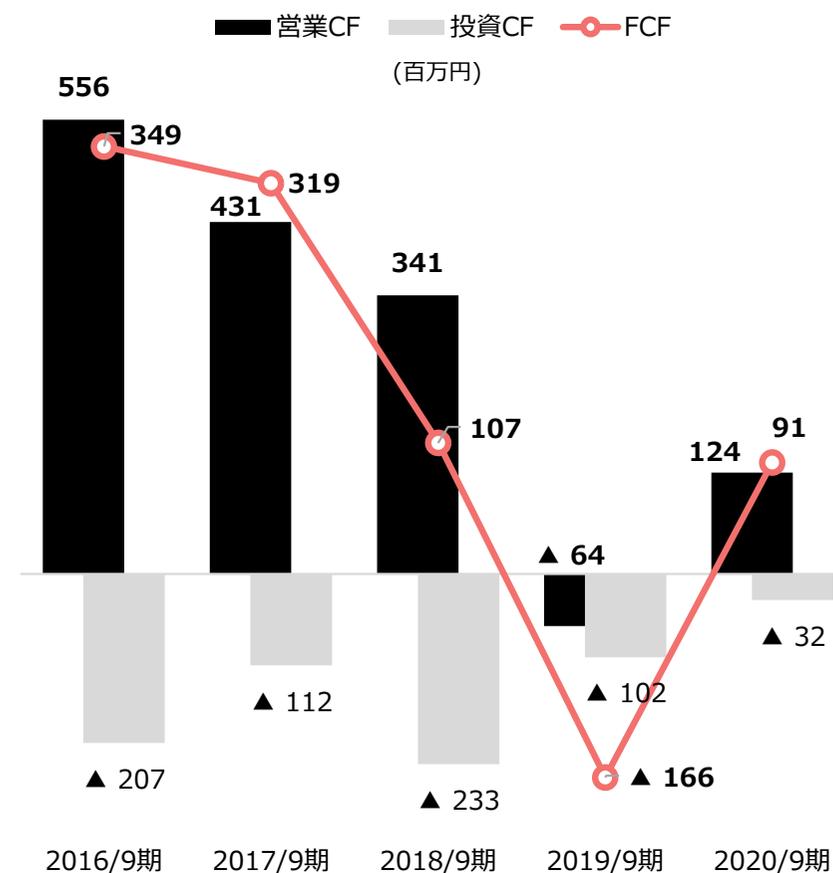


キャッシュフローの状況

- 営業CFは黒字を回復。減収減益とはなったものの、売上債権の回収などが貢献
- 設備投資も2020/9期はやや抑制気味で推移。FCFは黒字化し、キャッシュフロー面では健全な状況を確認
- ただし、キャッシュフローを半期ベースで見ると、上期のFCFが2.4億円であったのに対し、下期は1.5億円の赤字。コロナ禍の影響は否めず

(百万円)	2018/9期	2019/9期	2020/9期
営業CF	341	▲64	124
投資CF	▲233	▲102	▲32
固定資産取得	▲210	▲76	▲60
FCF	107	▲166	91
財務CF	102	2	▲70
借入金の返済等	▲375	▲217	▲202
株式発行収入	372	55	0
配当金支払額	▲21	▲52	▲53

* FCF=営業CF+投資CF で算出





2021年9月期決算見通し

2021年9月期 決算見通し

- 2021/9期は、M&A効果の寄与に加えてコロナ禍からの回復を見込み、増収増益を予想
- 特に、受注凍結となった前期の反動にM&A効果が加わるインダストリーで大幅な売上回復を想定。プロフェッショナルでも住宅着工回復を前提にインテリア中心に回復を予想。中小企業支援補助金案件も堅調持続

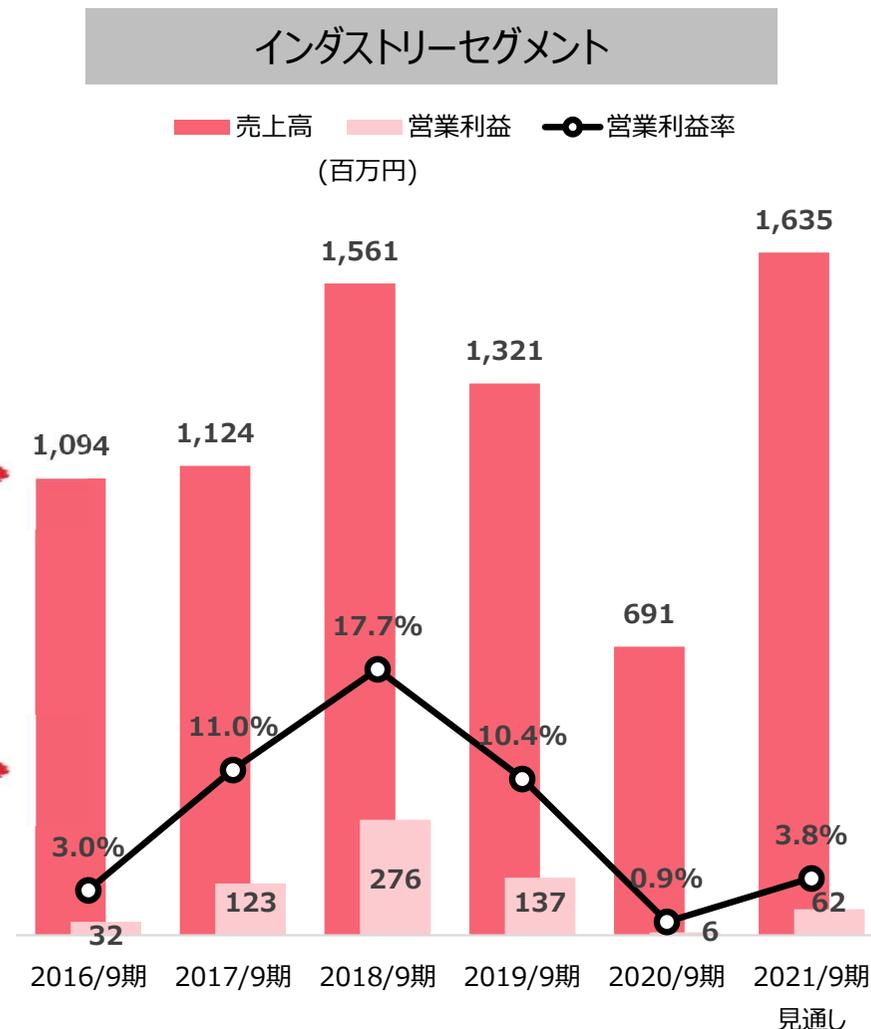
(百万円)	2019/9期	2020/9期	2021/9期*見通し		
			見通し	前期比差異	増減率
売上高	9,159	8,006	9,235	+1,228	+15.3%
プロフェッショナル	6,766	6,385	6,615	+229	+3.6%
コンシューマ	1,071	930	985	+54	+5.9%
インダストリー	1,321	691	1,635	+943	2.4倍
営業利益	248	120	170	+49	+41.7%
プロフェッショナル	72	78	89	+9	+12.7%
コンシューマ	39	35	19	▲ 16	▲47.2%
インダストリー	137	6	62	+55	9.8倍
経常利益	212	81	125	+43	+53.2%
当期純利益	144	67	80	+18	+18.2%
営業利益率	2.7%	1.5%	1.8%	▲0.1 p	—
経常利益率	2.3%	1.0%	1.4%	▲0.1 p	—

*当期より連結決算

2021年9月期決算 セグメント別見通し①

- 3セグメントでは、インダストリーが改善を牽引。プロフェッショナルもキャンペーンに新営業スタイル定着で堅調維持の見通し。一方、コンシューマは新製品開発に向けての初期コストが負担となり唯一減益の見通し
- インダストリーではROSECC買収効果に加え、ウィズコロナ下で自動化投資や食品機器などのニーズ拡大を想定。追い風取り込みに向けて関東スタッフも増強。M&A効果ではコア技術強化、顧客領域拡大の相乗効果発現を期待

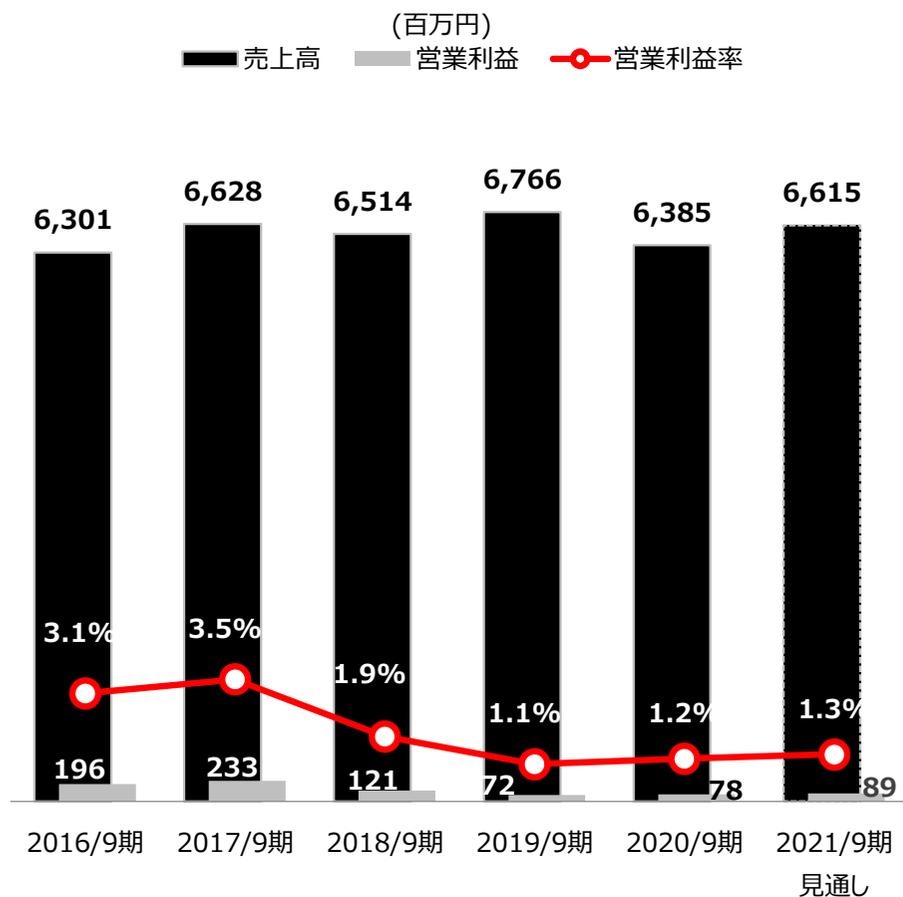
(百万円)	2020/9期 実績	2021/9期		
		見通し	前期比 差異	増減率
売上高	8,006	9,235	+574	+7.2%
プロフェッショナル	6,385	6,615	+230	+3.6%
コンシューマ	930	985	+55	+5.9%
インダストリー	691	1,635	+944	2.4倍
営業利益	120	170	+50	+41.7%
プロフェッショナル	78	89	+10	+12.7%
コンシューマ	35	19	▲ 17	▲ 47.2%
インダストリー	6	62	+56	10.3倍
経常利益	81	125	+43	+52.4%
当期純利益	67	80	+18	+26.5%



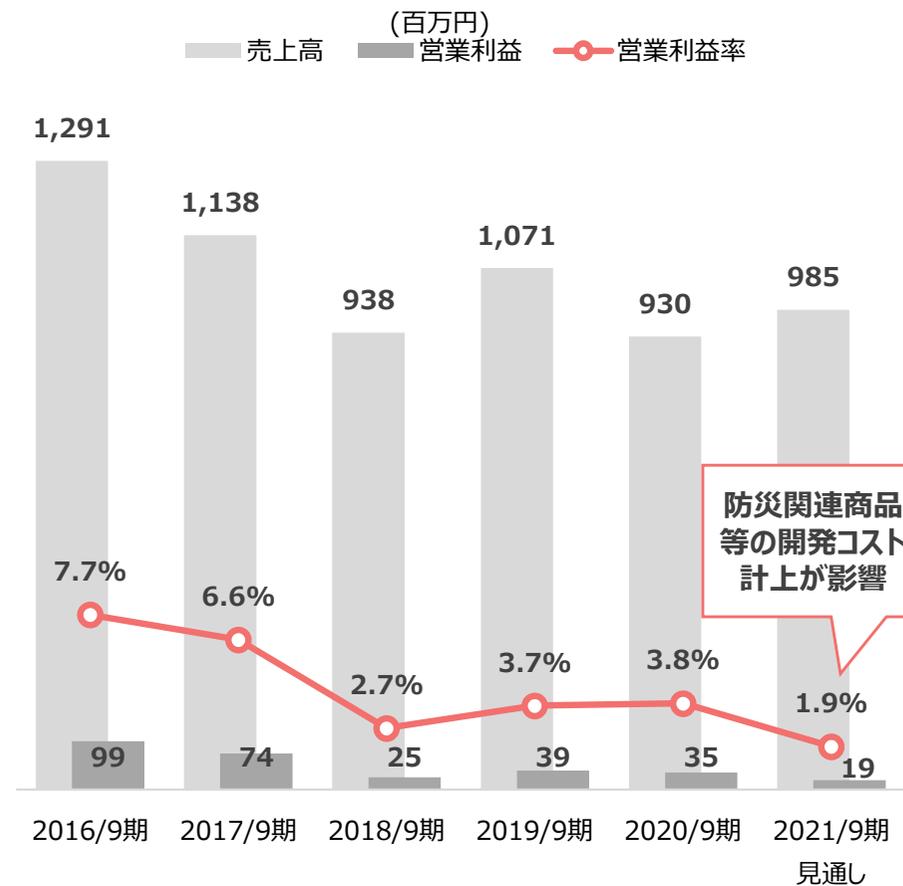
2021年9月期決算 セグメント別見通し②

- プロフェッショナルは自動壁紙糊付機販売開始50周年、コンピュータ式畳製造装置販売開始40周年の節目。積極的なキャンペーンの実施に加え、ウィズコロナ対応の新営業スタイル定着により、更なる営業効率改善を狙う
- コンシューマでは新型コロナ感染症対策も兼ねた防災商品等の開発の他、葬祭用畳・柔道畳等特殊機能畳の販売に注力。ネット販売の推進やダスキンとの協業による成果発現を急ぐ

プロフェッショナルセグメント



コンシューマセグメント



KYOKUTO

THE PROFESSIONAL
MACHINES AND TOOLS
SINCE 1948

トピック

- ✓ コア技術の活用による各種産業機器の開発・製造
- ✓ 各種ディスペンサー等の厨房の自動化機器の開発・製造



- ✓ ウォータージェット技術、ロボット技術を生かした自動化システムの企画・開発・販売
- ✓ 自動車業界に強み

経営姿勢・技術力・設備体制に「親和性」と「相互補完性」

経緯

2020年10月1日、ROSECC社株式を取得（完全子会社化）

目的

当社コア技術にROSECC「切断」技術及びロボット技術を追加
技術シナジーによる対応領域の拡大と一貫受注体制の確立
これまで手薄だった自動車領域の顧客層獲得

期待効果

2021/9期、売上7億円程度の貢献を想定。
相乗効果の本格発現は2022/9期以降

ROSECCウォータージェットシステム



ROSECCロボ外観

7つの基本要素技術

縫製

剥離

裁断

塗布

検尺

測定

折畳

7つの基本要素技術+ 1

縫製

剥離

裁断/切断

塗布

検尺

測定

折畳

+

ロボット

新たな経済社会環境への対応

EC対応

「ニュー畳ライフ」 楽天市場 ランキング第1位に

- 楽天市場「ニュー畳ライフ」
- 自社サイト「ニュー畳ライフ本店」オープン

総合評価 ★★★★★
4.61 (214件)

楽天デイリーランキング
楽天リアルタイムランキング
畳部門 第1位獲得
2020年5月15日更新

★ ★ ★ ★ ★

NEW TATAMI LIFE

ニュー畳ライフ
本店ECサイト
OPEN

日本の伝統は大切に守りながら、先進スタイルを追求しても、
畳のある生活は、新しい空間をつくりだす喜びを感じてくれます。
畳も新しい。畳と共に、お洒落な空間を演出してみませんか。
より多くの方に知っていただくように、発信していきます。

<http://www.newtatami.co.jp>

災害対応

避難所向け備蓄畳「そくさい」

- コロナ感染防止の「ついたて」と癒しの「畳」
のダブル効果
- 地方自治体向け



健康対応

フィットネスクラブ向け防音防振床材 「ジムボード」

- ウイズコロナ下における家庭用トレーニング
ニーズの掘り起こしにも注力





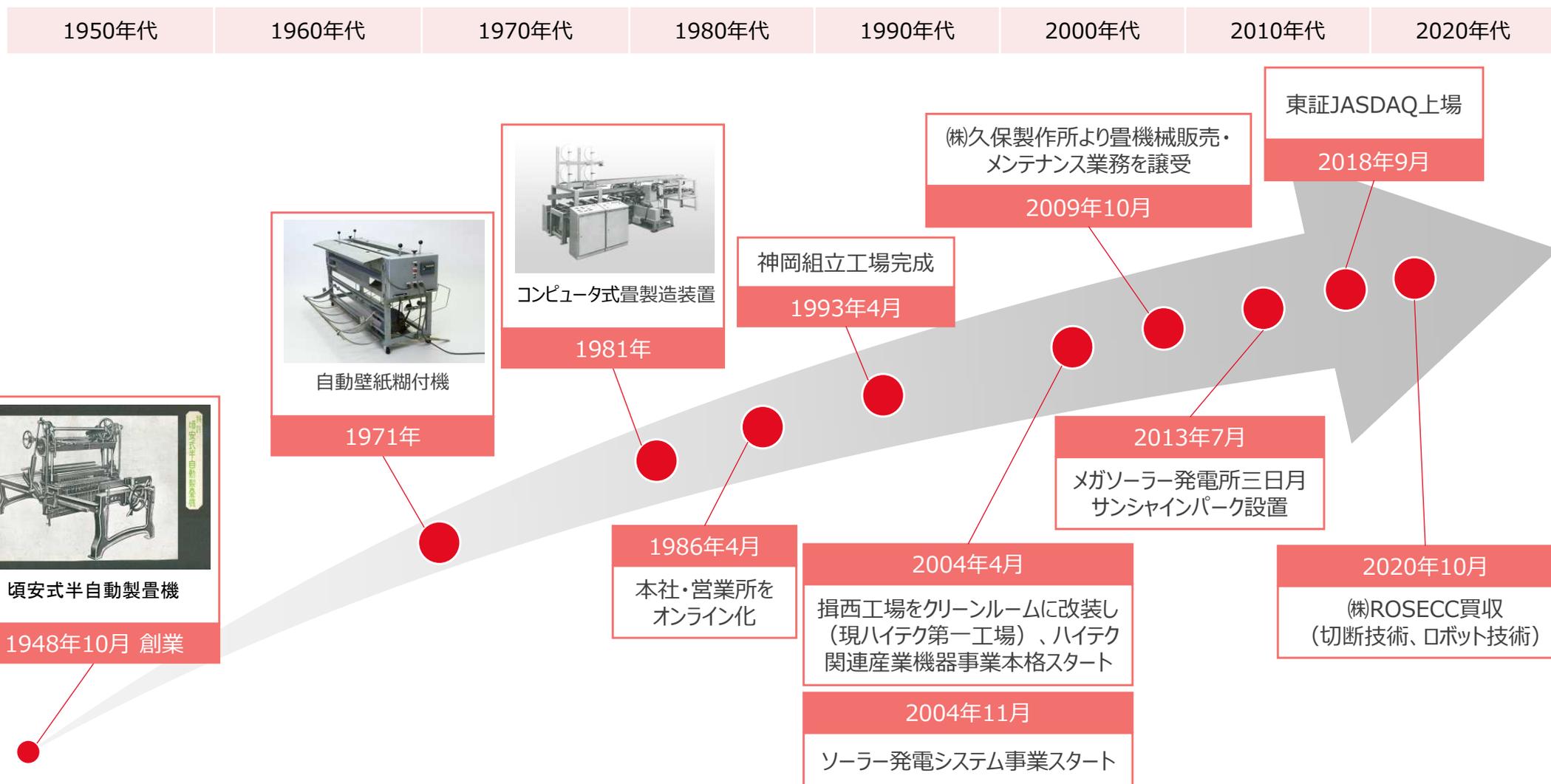
Appendix

「極東産機」とは

「職人」の世界に自動化・省力化技術を導入し（＝**つなぐ**。）、
新しい市場を創造する（＝**ツクル**。）問題解決型マシナリー企業

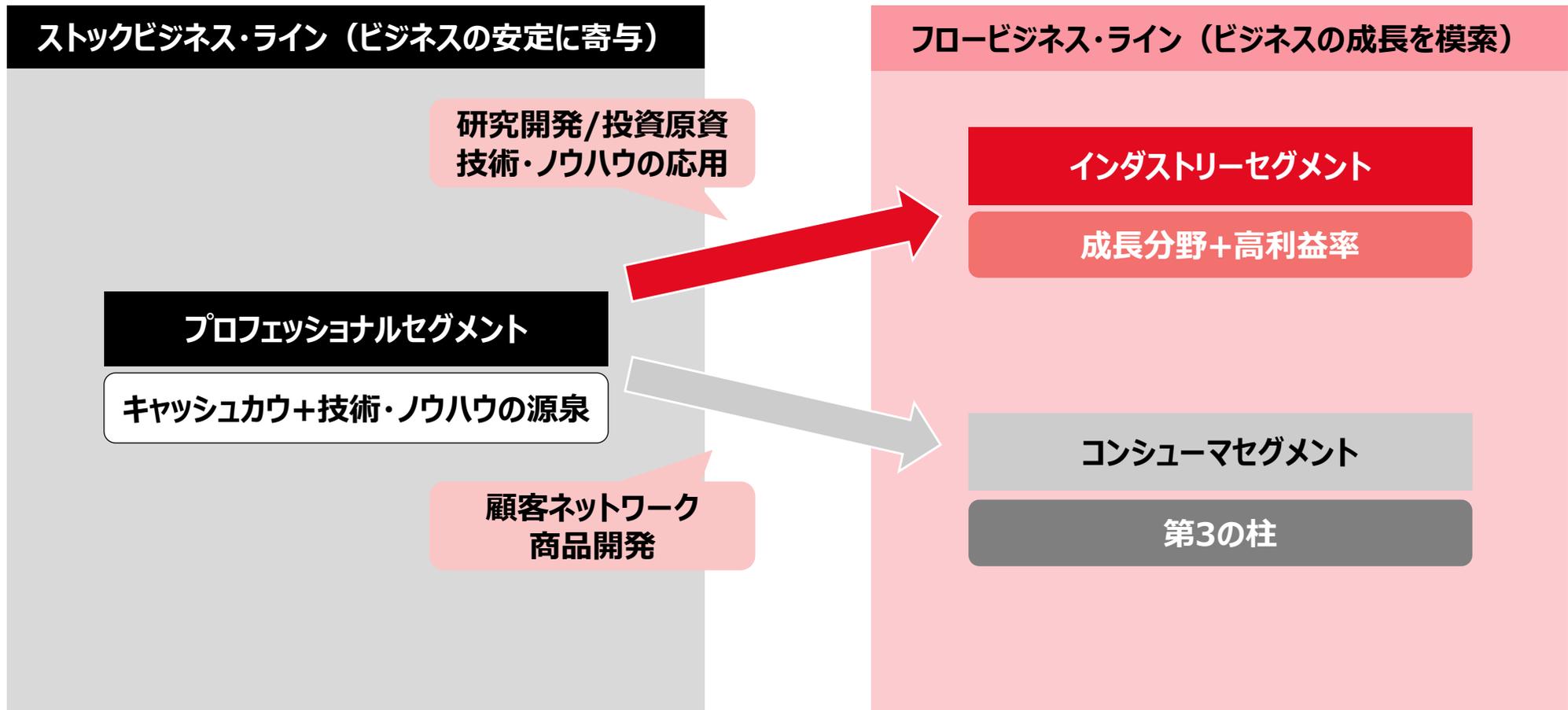
沿革

- 日本初のコンピュータ式畳製造装置、自動壁紙糊付機を開発。職人の世界にいち早くコンピュータを導入
- 現在はハイテク分野、メガソーラー発電などにも事業を展開



ビジネスモデル

- プロフェッショナルセグメントはストックビジネス色が強く、キャッシュカウ、技術の源泉として会社に貢献
- 一方、コンシューマセグメント、インダストリーセグメントは成長を模索する事業
- プロフェッショナルセグメントからコンシューマセグメント・インダストリーセグメントへ、キャッシュ、技術、ネットワークを供給し、会社全体の成長を図っていく仕組み



- より難しい技術への挑戦により、独自の自動化・省力化ノウハウを構築
- ストックビジネスとフロービジネスの2本柱を保有することで、安定性と成長性を両立

ポイント

1

職人技術の自動化・省力化ノウハウ

- 機械化の困難な分野の自動化・省力化技術をインダストリーセグメントへも展開
- 職人技に匹敵する7つのコア技術を当社1社で提供可能

ポイント

2

高い製商品開発力・提案力

- 独自製品開発に向け、設備投資に匹敵する資金を研究開発に投入
- 新製商品売上高は全社売上の約3分の1を継続的に維持

ポイント

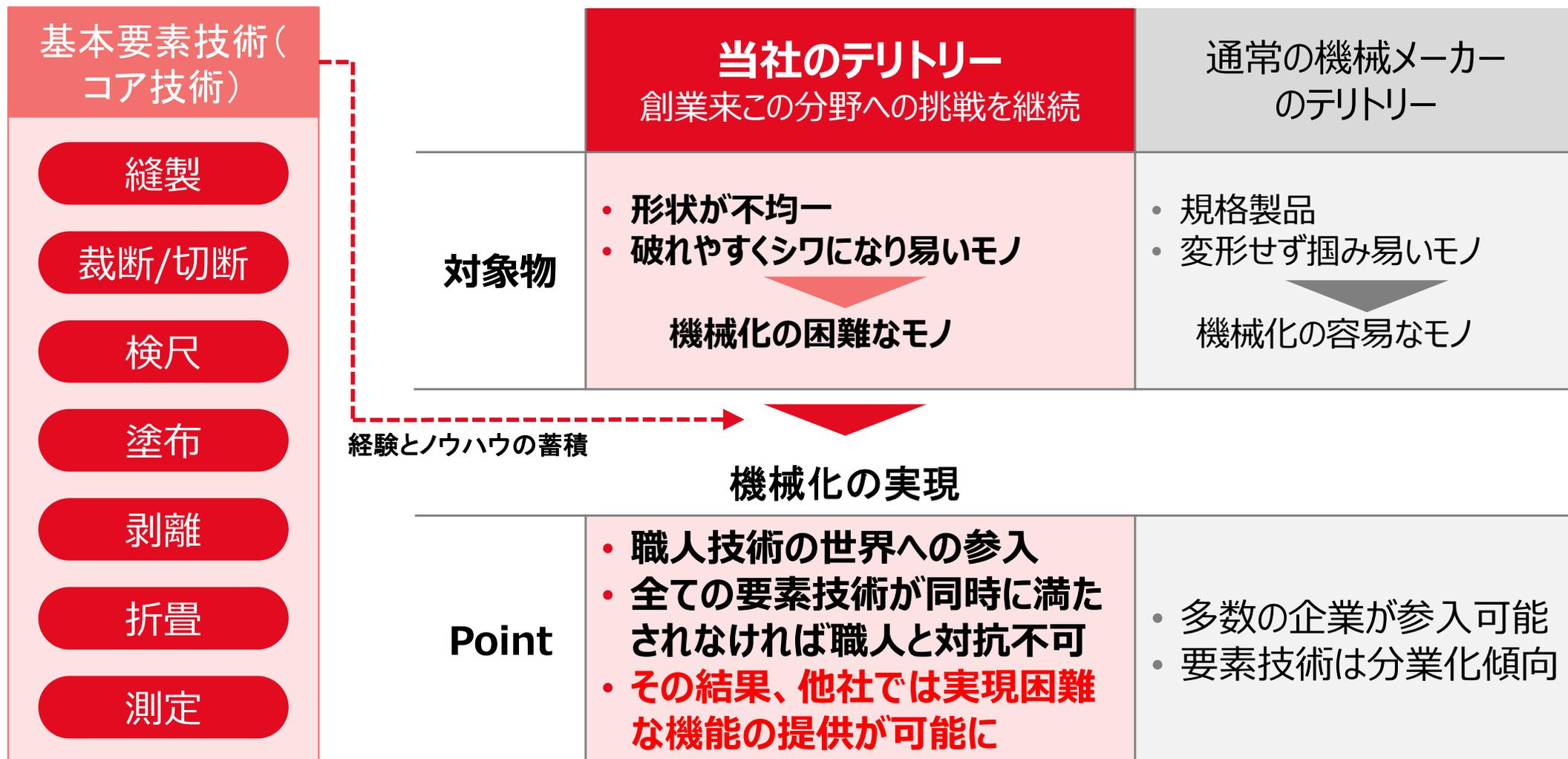
3

ストックビジネス(安定性)とフロービジネス(成長性)の2本柱

- 両ビジネスの紐帯は自社技術とそのノウハウ
- 2本柱でビジネスの安定性を確保しつつ、成長分野の探求も可能に

職人技術の自動化・省力化ノウハウ

- 7つの基本要素技術（コア技術）を全て満たす企業は少ないが、当社は1社で全て保有
- そもそも機械化が困難な職人の世界に当社は挑戦



半導体・電子機器

自動車

●液晶検査装置

液晶パネルを構成するカラーフィルタ、アレイ、セルの検査をおこなう装置



●車載二次電池用スリッター

原反の電極またはセパレータ材料を製品幅に連続して裁断し巻き取る装置



建築

● 種子マット製造設備

土壌保全等に使用するシートに芝生の種子を載せて上からシートを縫い合わせる装置



繊維・アパレル

● コンテナバッグ縫製設備

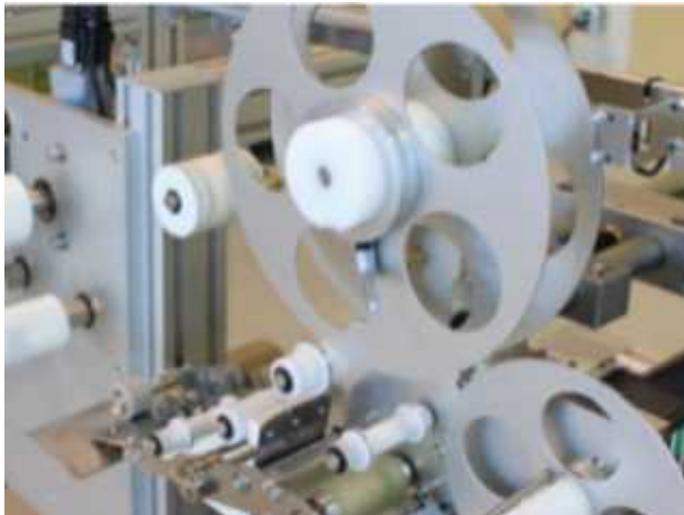
羊毛原毛を搬送するときに使用する四角いコンテナ状バッグを縫製する設備



医療

●IDタグ貼付装置

医療用品に、管理用のRFIDラベル
(ICタグ)を連続して貼り付ける装置



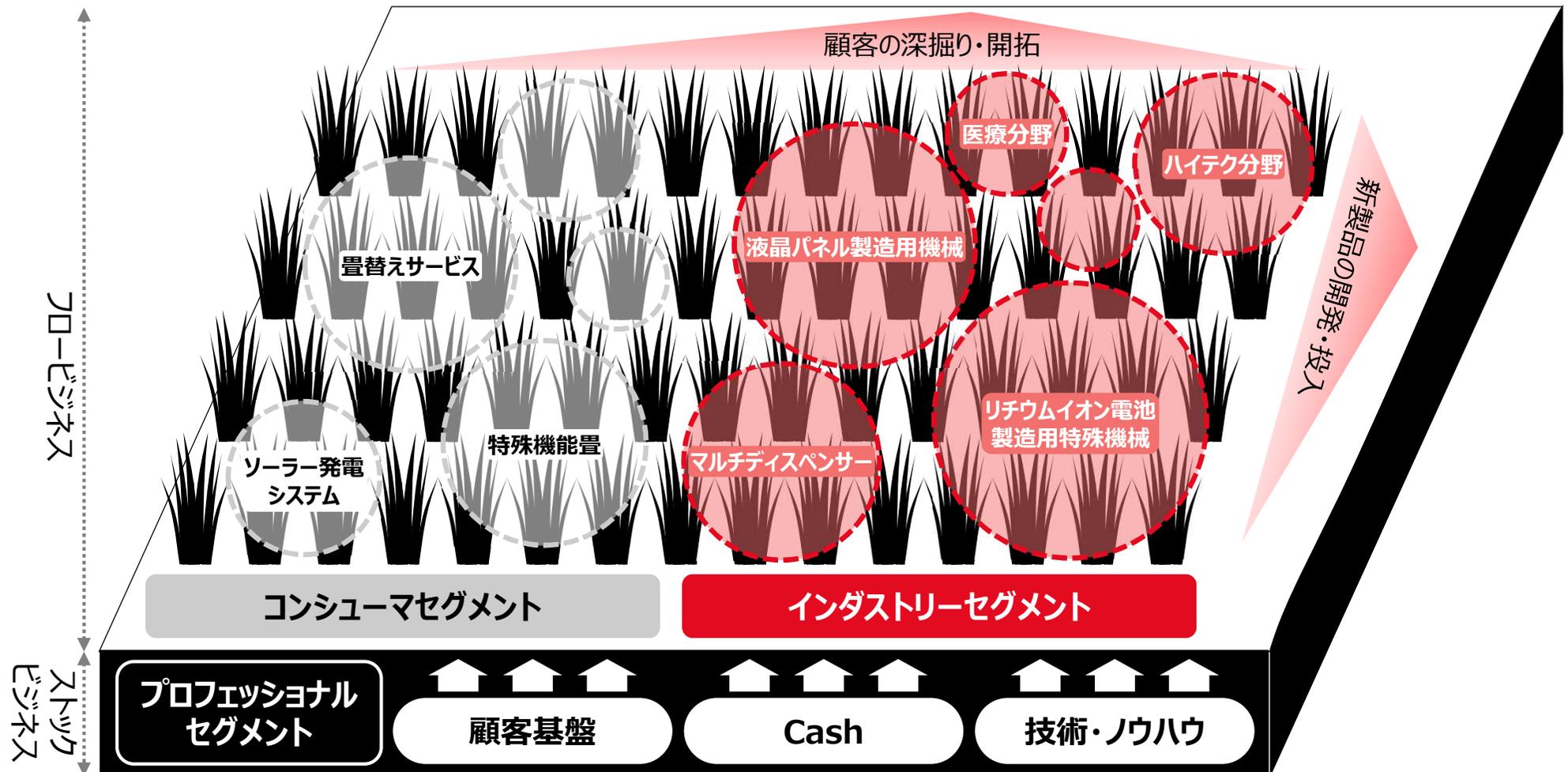
食品機器

●マルチ DISPENSER

味噌、濃縮ダシ、濃縮スープ等を希釈
して定量供給する装置



プロフェッショナルセグメントは「畑」 コンシューマセグメント、インダストリーセグメントは「果実」である！！



決算ハイライト

決算年月		2016年9月	2017年9月	2018年9月	2019年9月	2020年9月
売上高	(千円)	8,687,503	8,891,042	9,014,643	9,159,561	8,006,367
経常利益	(千円)	280,086	389,101	381,170	212,791	81,586
当期純利益	(千円)	174,634	244,596	303,342	144,681	67,685
資本金	(千円)	415,750	415,750	602,050	631,112	631,112
発行済株式総数	(株)	4,235,000	4,235,000	5,235,000	5,391,000	5,391,000
純資産額	(千円)	1,653,738	1,906,432	2,573,862	2,696,681	2,673,643
総資産額	(千円)	7,587,522	7,510,556	7,962,550	8,023,664	7,591,862
1株当たり純資産額	(円)	390.49	450.16	491.66	500.22	495.95
1株当たり配当額	(円)	5.00	5.00	10.00	10.00	10.00
1株当たり当期純利益金額	(円)	41.24	57.76	71.40	26.90	12.56
自己資本比率	(%)	21.8	25.4	32.3	33.6	35.2
自己資本利益率	(%)	11.1	13.7	13.5	5.5	2.5
配当性向	(%)	12.1	8.7	14.0	37.2	79.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	556,935	431,823	341,141	▲64,289	124,059
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲207,884	▲112,678	▲233,484	▲102,383	▲32,338
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲449,328	▲422,355	102,907	2,356	▲70,960
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,082,549	979,339	1,189,908	1,025,591	1,046,348
従業員数	(人)	254	256	260	275	281
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(19)	(19)	(25)	(24)	(23)

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@kyokuto-sanki.co.jp